



購読料 年8,000円
送料共 但し、会員
は会費に含まれる

発行所
京都府保険医協会
〒604-8162
京都市中京区烏丸通蛸薬師
上ル七観音町637 第41長栄
カーニープレイス四條烏丸6階
電話 (075) 212-8877
FAX (075) 212-0707
編集発行人 久保 佐世



主な内容
組織拡大特集号
本号は京都府保険医協会に未入会の
開業医・勤務医の先生方にもお送りし
ています。3面以降の特集をご覧ください
だき、ぜひご入会下さい。

- ご用命はアミスまで
- ◆医師賠償責任保険
 - ◆休業補償制度
(所得補償、傷害疾病保険)
 - ◆針刺し事故等
補償プラン
 - ◆自動車保険・火災保険
- ☎075-212-0303

京都市当局に市民署名を提出

患者・家族 人生のビジョンを切り開いてくれた 市リハセン附属病院をなくさないで

協会が事務局を担う京都のリハビリを考える会は10月18日、京都市身体障害者リハビリテーションセンター(市リハセン)で、京都市当局に対し、この間取り組んできた市長宛個人署名、「附属病院廃止方針を撤回し市民の生命を守るよう求める要請書」(個人署名2832筆・団体署名26団体)を提出した。署名提出には、協会の垣田理事長が出席。現場スタッフや、市リハセンの患者・家族も多数出席した。冒頭、垣田理事長のあいさつの後、京都市保健福祉局障害保健福祉推進室の安部康則室長等に署名を手渡した。

京都市当局に届けた肉声

出席した患者・家族は、**「夫が脳内出血で20年市当局に対し、市リハセン以上、市リハセンに関わっている。心に大きな穴があかないことを願う」**「足が動かなくなり、市リハセン附属病院にかかった。訓練し、機能回復を目指している先輩たちの姿が自分の目標だった。市リハセンで、自分の人生の先のビジョンが明確になり、展望が開けた。市リハセンはそういう場所だ。病院機能とリハビリテーション



市担当者(右)に署名を手渡す垣田理事長ら

が一体化した施設は必要だ」「夫が附属病院に通院している。週1回通うことが、唯一の社会参加」どうか、自分のこととして、明日は我が身だと思っ

て、協会が共済制度について改めてご紹介したい。協会は独自の、あるいは全団連と協力して種々の共済制度を運営し、会員や家族のお仕事や生活の安定、あるいは突然の事故などの際の援助に役立つよう努力している。

主張

具体的には医師賠償責任保険や居宅介護事業者等賠償責任保険など直接医療に

署名提出から3日後 市が廃止方針正式にまとめる

署名提出から3日後の10月21日、京都市教育福祉委員会が京都市は「京都市におけるリハビリテーション行政の基本方針」策定を正式に報告した。委員会では7月24日開始、8月23日締切の市民意見募集(パブリックコメント)結果が報告され、応募人数93人・意見数158件のうち、附属病院廃止を含む「リハビリテーション医療への新たな関わり方」に関するものが79件あったことを明らかにした。

このコメントに対し、考える会は「市リハセン附属病院が果たしている役割は民間でもできるという、従来からの市の主張については、我々のまとめた提言で反論を尽くしている。きちんと提言を読んで再検討せよ」と強く求めた。なお、この模様は京都新聞をはじめ、マスコミ各社でも取り上げられた。

協会等が市に提出した「医療機能の拠点をなくして、障害種別を超えた相談窓口や高次脳機能障害者のための障害福祉サービス、人材育成等の機能を具体的にどうやって担うつもりなのか」との指摘を受ける形で、案段階では「(1)附属病院の廃止」としていた該当部分の見出しを「(1)個別支援」から「専門性

の向上に向けた事業者支援」への移行」に変更し、附属病院を廃止しても必要な医師等の医療専門スタッフを適切に配置することを明記した。

しかし、診療報酬上の算定日数制限により制度の隙間に落とされた患者の受け皿としての現病院機能である側面については、民間でもできる姿勢を崩さず、附属病院廃止方針は撤回しなかった。

委員会では、複数の議員から「民間でもできるというが、どの病院が具体的にその役割を果たしてくれるのか」など、厳しい追及もなされた。

なお、市会には別の当事者団体からも請願が提出されており、この日の委員会では留保扱いとなっていた。この請願を今後議会としてどのように扱うのかも焦点の一つである。

(2面に関連記事)

は、いつどのような事故などの不運に遭遇するかわからない。そのような場合の負担の軽減に資するように、協会のこれらの制度の利用を検討いただきたい。個々の詳細は協会のサイトから、右下にあるアミスのページをご参照いただきたい。

余談になるかと思うが、最近自転車による事故で高額賠償金が請求される事例がよく報道されている。もちろんそのような事故をカバーする保険(個人賠償責任保険)はあるが、これ

医	界
寸	評

今日1日、旧医師会館跡地に新しくオープンした病院は、1981年に京都府と京都市の援助を受けて京都府医師会が作った「京都地域医療学際研究所」の附属病院として北区に開設されたものであり、福祉元年といわれた73年の老人医療費無料化の陰で高齢者の受診が増え「医療機関が年寄りのサロンのようになっていく」と懸念をいわれるようになり、82年には無料化廃止、83年には例の「医療費」国論が出る社会保障後退の時代背景だった▼今後の高齢化の課題も見え、金属ハットによる両親殺害事件など家族の姿容も頭わになる社会状況の中、西陣医師会の若手医師を集めて、これからの地域医療の問題を広く学際的に研究しようと呼びかけられた、二代目所長の藤田医師の熱い言葉に感激したことを思い出す▼発足時には公費に加え個人の寄付も多く寄せられ、その後も北上東・西陣医師会が市民健診を請負うなど、期待を込めて物心両面でこの研究所を支えてきたが、病院連れて引越した後は、予測された以上の早さで07年に超高齢社会に突入してしまつたこの国で今まさに提唱されているのが「地域包括ケア」。そこそ地域医療学際研究の大成果が問われている。新病院もリハビリはいい。が、隣が旧医師会館跡地一部売却却用で「サ高住」に、とはいかがなものか。

(七)

2013年度 地区との懇談スタート

協会は10月16日、伏見医師会との懇談を皮切りに各地区医師会との懇談をスタートした。本年度の協会からのテーマは①次回診療報酬改定の方向性について、②社会保障制度改革の狙いもの・地域の医師が問われること一皆保険制度からTPP・消費税まで、③医療事故に係る調査の仕組み等のあり方について。できるだけ多くの会員にご参加いただき、忌憚ないご意見を伺いたい。

協会は10月16日、伏見医師会との懇談会を開催した。出席は地区から11人、協会7人で、司会は伏見医師会・松本恒司副会長が務めた。冒頭、吉田昭和会長から、「都市部を直撃した台風26号は、ニュースでも大きく取り上げられた一方で、京都の福知山をはじめとして甚大な被害が出た台風18号は、それほど大きく報道されなかった。都市部は、地方での出来事には関心が薄いこと、表れであり、それは医療も同じだ。すべては中央(都市部)を

中心として構想され、決定されていく。もともと地方や現場の声を耳を傾けてほしい」と挨拶された。意見交換では、厚労省の政策である「入院から在宅へ」の誘導に関して、地区から「在宅医療は、医療従事者はもちろん、介護する家族の協力や努力がなければ成り立たないことを忘れてはならない。本当に患者や家族にとって幸せなのか。また、本当に入院よりも在宅医療にシフトするほうが医療費の抑制になるのだろうか」と疑問視する意



18人が出席して開かれた伏見医師会との懇談会

患者や家族にとつての幸せな最期とは

伏見医師会と懇談

10月16日

伏見医師会館

見が出された。これに対して協会から、「最期を迎える場所については、自宅、

介護施設、医療機関など患者の希望はさまざまであると思うが、医療費抑制だけに着目して在宅へ誘導するという発想が間違っている」と指摘。また、外来診療をしない、在宅医療に特化した医療機関の認可が検討されていることについて触れ、「本来開業医は、院内に設置している必要な医療機器を使用するなどとして、患者に対して責任ある診察をしていくべきである。電話一本だけの医療機関ができるようになれば、開業医のあり方も変容していくだろう」と言及した。地区からは、「特養やサ高住(サービ

入付き高齢者向け住宅)などの介護施設を充実させるのはどうか」との提案もあった。その理由を「同世代の仲間がいるので寂しくなく、スタッフも常駐して安心である。また、施設をもっと街中に建てることで、家族も訪問しやすく、患者も外出しやすくなる」と補足した。協会からは、サ高住の介護施設において、集中的に患者を紹介し、手数料を取るなどの悪質な民間業者もいることを紹介し、「医療や介護がビジネス化しており、協会だけでなく中協でもこの点を注視している」とした。その上で、「ただし、真面目に診療している医師もいるので、介護施設等への訪問診療の点数を下げればいという一足飛びの話にはならず、慎重に対応すべき」と

市リハセン附属病院存続求める声が集

京都市役所前で訴え

京都市のリハビリを考える会は11月2日、京都市役所周辺で京都市リハセン附属病院廃止をやめさせ、京都市の公的な医療・福祉行政の充実を求める街頭宣伝&アピール行動を開催した。宣伝には、患者・当事者、現場スタッフ、OB、専門職団体、市民団体から50人を超える参加があった。アピール行動は、市リハセンの理学療法士である浅田氏が司会を務めた。



府作業療法士会、現場の理学療法士、看護師、労働組合からも次々発言。市リハセン創設時の看護師等、京都市OBも複数参加し、附属病院廃止を打ち出す市の姿勢に疑問を呈した。マイクを握った坂本誠理

「地域医療におけるこれからの市民と医療者の連携」をメインテーマに、10月12・13日の両日、第28回保団連医療研究会が横浜で開催された。全国各地からの参加者は、医師・歯科

事、市リハセン設立の全国的な意義を振り返り、日数制限や自立支援法等を通じて、給付抑制のすむりハビリテーションの意義を訴えた。そして、市リハセンは民間病院が果たし得ない役割を果たしているのでは

り、これにとつてかわることは不可能だと指摘した。渡邊賢治副理事長は、診療報酬上の日数制限について、誰もが決められた枠組みの中でリハビリが終了するはずがない。必要な人に必要なだけ保障されること

が大切だ。制度の狭間に置かれた人たちに医療を提供する市リハセン附属病院の役割は重要である。市リハセンは患者・家族の方々の希望を切り開く場所であり、公立施設としての役割を市は決して忘れてはならないと訴えた。

「府内の大気汚染調査」をテーマに、会員協力のもとで測定したNO2カプセルの結果(第2851号第3面既報)を報告した。また、飯田哲夫理事は「京都に於ける福島原発事故避難者」をテーマに、避難者としてさまざまな活動を行っているいくつかの市民グループと協会が共同で作成、実施した避難者を対象としたアンケートの結果(第2853号第2面にて既報)などを報告した。そのほか、在宅セミナーとして、「かかりつけ医が取り組める在宅医療―実はハードルは低い 地域社会、他職種連携に視線を」が市民公開講座として行われた。

「府内の大気汚染調査」をテーマに、会員協力のもとで測定したNO2カプセルの結果(第2851号第3面既報)を報告した。また、飯田哲夫理事は「京都に於ける福島原発事故避難者」をテーマに、避難者としてさまざまな活動を行っているいくつかの市民グループと協会が共同で作成、実施した避難者を対象としたアンケートの結果(第2853号第2面にて既報)などを報告した。そのほか、在宅セミナーとして、「かかりつけ医が取り組める在宅医療―実はハードルは低い 地域社会、他職種連携に視線を」が市民公開講座として行われた。

第28回保団連医療研究会に報告

府内の大気汚染調査と福島原発避難者アンケート結果で

「府内の大気汚染調査」をテーマに、会員協力のもとで測定したNO2カプセルの結果(第2851号第3面既報)を報告した。また、飯田哲夫理事は「京都に於ける福島原発事故避難者」をテーマに、避難者としてさまざまな活動を行っているいくつかの市民グループと協会が共同で作成、実施した避難者を対象としたアンケートの結果(第2853号第2面にて既報)などを報告した。そのほか、在宅セミナーとして、「かかりつけ医が取り組める在宅医療―実はハードルは低い 地域社会、他職種連携に視線を」が市民公開講座として行われた。

そのほか、次回診療報酬改定や、消費税の増税など、時宜を得た話題について意見交換した。

「公費負担医療」説明会

公費負担医療の基礎的事項をわかりやすく解説!

◆京都市会場 ※①と②の内容は同じです
日程① 12月11日(水) 午後2時~4時
日程② 12月17日(火) 午後2時~4時
会場 京都府保険医協会・会議室

◆舞鶴市会場
日程 12月13日(金) 午後2時~4時
会場 舞鶴西総合会館3階 林業センター会議室
共催 一般社団法人舞鶴医師会

◆木津川市会場
日程 12月14日(土) 午後2時~4時
会場 木津川市中央交流会館「いずみホール」2階会議室
共催 一般社団法人相楽医師会

要申込 (申込書はグリーンペーパーNo.206等参照)

対象 医師、医療事務担当者
参加費 無料
持ち物 『公費負担医療等の手引(13年11月版)』を必ずご持参下さい。



※11月15日より会員各位へ順次発送

薩摩杉のもこもこ クリスマスリースを作ろう

会員および家族・従業員の方を対象に「クリスマスリース作り(直径25cmリース台使用)を企画しました。薩摩杉(生花)を用いて、もこもこのかわいいクリスマスツリーを作ります。飾り付けるパーツも全て自然の花材です。奮ってご参加下さい。(花バサミ・敷物・お手拭雑巾・お持ち帰り袋等、ご用意します。)

日時 12月14日(土) 午後2時~4時30分
場所 京都府保険医協会・会議室
講師 上田 二三恵氏(フラワーショップカドマガタ代表) フラワーコーディネーター・日本フラワーデザイナー協会会員
参加費 (5,250円のところ会員および家族・従業員の方) 4,000円
共催 京都府保険医協会 (有)アミス



(イメージです)

講演会 & ワークショップ

鎌仲ひとみさんと考える こどもたちの未来のために私たちができること

日時 12月15日(日)
第1部(講演): 午前10時30分~ 鎌仲さんに聞きたい!「ベラルーシのいまを 福島のために!」
第2部(ワークショップ): 午後1時~ 「こどもたちの未来のために 私たちができること」
場所 京都府保険医協会・会議室
参加費 無料(先着60人・要申込) ※保育あり
共催 内部被曝から子どもを守る会・関西・核戦争防止国際医師会議(IPPNW)京都府支部・京都府歯科保険医協会・京都府保険医協会

開業支援は協会にお任せ下さい!!

新規開業予定者のための講習会開く

新規開業を考えておられる勤務医を対象に、京都府保険医協会は「新規開業予定者のための講習会」を10月27日に開催した。共催は有限会社アミス。

スムーズな開業を成功させるには

第1講は、開業後一日も早く軌道にのせるために「事前準備のポイント」と題し、新規開業支援を多数手がけた廣井増生税理士がこれまでの事例をもとにアドバイスを行った。まず、開業の適齢期は、

廣井氏の経験から、40歳代が適しているのではないかとこの持論を紹介。ただし、開業に対する強い熱意があれば、年齢に関係なく、成り功している方も多数いる。最終的には本人次第だと話した。

開業する目的は人によって異なるであろうが、開業すると決めたら思い切りよく進むことが大切である。開業した医師の中で「待つて良かった」と思う方はいない。もし開業に恐怖感を持つようであれば、むしろ思いとどまったほうが良いと開業までの心構えを説明した。

開業までのスケジュールを考えると、勤務しながら最後の1カ月ですべて行うというのは無理で、勤務先の退職時期は2カ月前くらいが望ましい。開業の2カ月前にしか決められないことが多いと、また、コンサルタントが入っていても、最後は自分自身が動かないと確定しないことが多数あるため、開業直前の多忙さを甘く見てはいけないと注意喚起した。

その他、開業に必要な資金額や調達方法、科目別の必要な坪数、坪単価の落とし穴、導入すべき医療機器等の設備投資額の目安、玄

自身の開業経験からアドバイス

第2講は、梶田泌尿器科クリニック院長・梶田洋一郎氏が先輩開業医として、自身の開業時の経験を振り返ってアドバイスを行った。開業は2年前から計画し、医院のコンセプトとして、泌尿器科であるため

関やトイレに求められるコンセプト、広告にかける費用や、スタッフ採用時のチェックポイントなどについて、これまでの自身の豊富な経験から集まった情報をもとに、できる限りスムーズに開業し、いち早く経営を軌道に乗せるためのノウハウを披露した。



アドバイスを行った梶田氏

最後に、医院経営にとって重要なのは、医師の手柄、スタッフの温かい心、医師の健康などであるが、何よりも不可欠なのは家族の理解である。開業が成功しても、家族関係が崩壊するようでは成功したとはいえないと締めくくった。

医院は烏丸通に面したビルの5階にあるため、京都市の条例で看板が出せず、患者さんに気付いてもらいにくい難点がある。新患はインターネットを見ての来院が多いため、早くからホームページを立ち上げておけばよかったと今になって思う。これから開業する

方には、ホームページの作成や検索エンジンで上位にヒットするようになるまで3カ月程度はかかることを見越して準備することをお勧めする。

地区医師会への連絡は早めに行い、開院前後のあいさつ回りしておくこと患者さんを紹介していただければ。総合病院のかかりつけ医に登録したり、イベントに参加したりして、知り合

いを多くつくることで増患対策にもつながる。受付は接遇ができる人が良く、協会の講習会に参加すると良いなど、これまでの自身の経験を披露するとともに協会の講習会利用についてもアドバイスされた。

文化企画

史跡の静かな佇まいにため息

文化ハイキングで東山巡り

「文化ハイキング」秋の東山南部の史跡を巡る」を10月20日に、15人の参加者で開催。当日は、あいにくの雨模様となったが、秋の一日を楽しんだ。

画を鑑賞。また「妙法院」では国宝の庫裏を見学。さらに一行は秀吉ゆかりの「豊国神社」に到着。宝物館に展示されている豊臣家にまつわる遺品の数々を見ることができた。

菩薩の面に金襴装束の児童が二十五菩薩に扮し、極楽から死者を迎えて来迎する様を伺うことができた。「戒光寺」では、蓮慶・堪慶合作で、他に類をみないほど大きな木彫の釈迦如来像を見学。また「悲田院」では境内から雨雲にかすむ市街を展望した。「泉涌寺」本坊では荘厳な仏殿などを巡り、「雲龍院」では、蓮華の間や悟りの間などで書院から趣向を凝らした静かな佇まいの庭を見ながら、しばし心を休めた。

帰路につく頃には、ようやく雨も上がり、釣瓶落としの秋の落日は早く、一行は史跡巡りを満喫することができた。



「文化ハイキング」秋の東山南部の史跡を巡る」を10月20日に、15人の参加者で開催。当日は、あいにくの雨模様となったが、秋の一日を楽しんだ。まず一行は「智積院」へ。ここでは利休好みの庭と長谷川等伯一派の見事な障壁

三十三間堂「南大門」から東山通を南下し「新熊野神社」へ。ここでは後白河上皇御手植と言われる大楠を見ながら、世阿弥・観阿弥が足利義満の面前で猿楽を演能した往時を偲んだ。泉涌寺道場を上がって、まずは「即成院」へ。当日は年一度の「お練供養法会」が開かれ、雨の中、

こんなことをやっています！ 協会の文化企画

文化講座 年に2回。哲学や京都の文化・歴史をテーマに開催しています。

文化講習会

アロマセラピーの講習会やクリスマスリースの作成など、毎回、いろんなテーマで企画しています。

文化ハイキング

京都を中心に、近畿の史跡・名跡を訪ね歩きます。

サロンコンサート

京響メンバーによる演奏を楽しめるひとときです。



ワイン講座

ワインの解説はもちろん、テイスティングも！食事とともにワインを楽しみます。

ジャズを楽しむ会

ライブハウス「ル・クラブ・ジャズ」での演奏会。最後には参加者も演奏に飛び入り参加！



ランニング教室

初心者と経験者に分かれて、講師が指導。それぞれのペースで鴨川沿いなどをランニングします。



あらゆるご相談に応じます。協会の各種相談体制

法律・税務・雇用管理・建築・資産運用・廃棄物処理の各専門家をご紹介します！

- ※複数人態勢の中からお希望の方をお選びいただけます。
- ※随時、必要な時に相談できます。先生のご都合の良い日で日程調整します。
- ※相談は無料(ただし、1事案1回限り)。1事案につき1回の無料相談を超えてのご相談は、個別相談に移行し有料になります。

▼お問い合わせは協会事務局まで▼
TEL 075-212-8877 FAX 075-212-0707

会員限定 医薬品・医療材料の共同購入を開始！

利用の条件は、京都府保険医協会会員であることのみで、他の費用負担は一切ありません。

2カ月に1回、「共同購入案内カタログ」をお届けします。

ご利用方法等の詳しいお問い合わせは、☎075-212-8877(協会事務局)まで。



←カタログ見本

羊水塞栓症と産科出血を臨床的に解説

第45回産科婦人科診療内容向上会が8月31日、京都ホテルオークラで開催された。浜松医科大学産婦人科学教授・金山尚裕氏が「羊水塞栓症と産科出血」と題して講演し、132人が参加した。

産婦人科診療内容向上会レポート

京都産婦人科医学会の大島 最近の審査事情、特にコン正義会長、京都府保険医協 ピユータ化によるプラス面の垣田さち子理事長の挨拶に引き続き、京都府警察本部刑事部捜査第一課・増田茂雄氏より、京都における女性生涯医学教授の北脇城氏による紹介の後、金山尚裕氏の講演が始まった(1980年浜松医科大学を卒業され、99年同大学産婦人科教授となられた)。

次に、支払基金京都支部審査委員の井田憲司氏より、保険請求の留意事項とことにより引き起こされ

る「肺毛細管の閉塞を原因とする肺高血圧症と、それによる呼吸循環障害」を病態とする疾患で、妊産婦死亡原因の第1位である。羊水中の胎児成分と液性成分が母体循環に比較的大量に流入することにより発症する。実際には物理的塞栓より、アナフィラクトイド反応による肺動脈の攣縮が多い。

症状より、発症から心停止まで短時間で、時に原因不明の胎児機能不全を認める。肺毛細管の閉塞を原因とする肺高血圧症と、それによる呼吸循環障害」を病態とする疾患で、妊産婦死亡原因の第1位である。羊水中の胎児成分と液性成分が母体循環に比較的大量に流入することにより発症する。実際には物理的塞栓より、アナフィラクトイド反応による肺動脈の攣縮が多い。

救命には、早期に治療を行うためのAFE臨床診断が重要である。治療では、初期管理が大切で、一次施設では初期ショック対応(気道確保、補液、抗ショック薬)とDIC対策(アンチトロンビン投与、FDP投与)をしつつ高次施設へ、高次施設では早期よりのICU管理(DICにアンチトロンビン投与、FDP10〜15単位以上、血液凝固因子の補充、ノボセパン投与等)が求められる。



講師を務めた金山氏

野村 拓

何より予防が大切で、より安全な分娩管理が求められる。適時破水をめざし、非生理的人破はできるだけしない、破水後の観察は大切で、特に低置胎盤、子宮内腔に近い子宮筋腫、腺筋症、羊水混濁、遷延分娩、メトロ挿入等子宮内圧が上昇する処置、クリステル庄出血+吸引分娩後は要注意。帝王切開時に羊水をリークさせない等。

私のすすめるBOOK

仕事と生活習慣病
 (経営者新書)
 吉中丈志 著、幻冬舎
 価格777円(税込)

著者の吉中丈志氏は京都府民医連中央病院院長で、循環器専門医、総合内科専門医であることにも多くの労災認定にも関わっています。

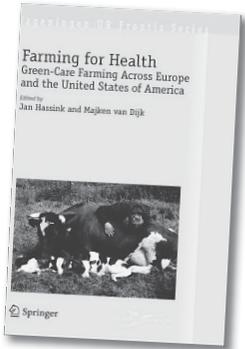
「滅私奉公」から「活私創公」へ 健康で働き続けるために

てきた経歴があり、今年から保険医協会の政策担当理事としても活躍されている。豊富な産業界としての経験と知識をまとめたのが本書である。生活習慣病といわれる肥満、糖尿病、脂質異常症、高血圧、心臓病、脳卒中等は、食習慣、運動習慣、休養、喫煙、飲酒等の生活習慣がその発症・進行に大きく関係しているが、

「緑」と「土」の連合

— 日本からの発信 —

グローバリゼーションへの対抗軸としての「草の根・社会保障」運動については、前回述べた。途上国中心の「草の根」運動とはやや対照的に、先進諸国では、オランダ中心にグリーン・ケア(緑の癒し)が展開されている。(図1)は訳せば「健康農園—欧米のグリーンケア農園」(Jan Hassink他編:Farming for Health Green-Care Farming Across Europe and the United States of America, 2006. Springer.) となる本は22章中7章がオランダに当てられている。干拓によって得た土地、緑、花に対する思い入れが強いからかもしれない。



(図1) 欧米の「グリーンケア」をまとめた本

フランダース(オランダとベルギーの一部)だけで140カ所の「グリーンケア農園」が存在し、精神医療、高齢者医療に貢献しており、「園芸療法士」(Horticultural Therapist)という職種も存在する。

蒔かれた種が土を持ち上げて地上に顔を出すとき、その生命力に高齢者は感動する。そして、生命をそだてる「土」にも愛着を感じる。18世紀半ば、イギリスで「ノーフォーク輪作」という土を大事にする農法が生まれたが、アメリカの大規模経営の低価格に圧倒されてしまう。そして穀物メジャーは土をダメにしながらいながら遺伝子組み換え、パテントかせぎに走っている。



いま、グローバリゼーションは土と「癒しシステム」を破壊しつつあり、途上国もそれなりの対抗策を講じつつあるが、日本には農業と医療とが良い形で結び

(図2) 岩手県の県民100%国保加入記念の出版物(1955年・岩手県国民健康保険団体連合会発行) あえて「国民健康保険」という言葉をつかわずに「国民皆保険」という言葉が戦時中の1942年、国民皆保険と構並の言葉として登場したからだろう。

付いた伝統がある。(図2)は1955年段階で県民100%国保加入を達成した岩手県の記録である。ここには、温度差がありながら、みんなが地域の医療を、そして農林漁業を熱く語った記録が残されている。もう一度原点から、そして、世界への発信も。(完)

地区医師会との懇談

中京西部 11月25日(月) 午後2時30分～
 中京西部医師会・事務所 7F

乙訓 12月9日(月) 午後2時～
 乙訓医師会・事務所

下京東部 12月11日(水) 午後2時～
 ホテル日航プリンセス京都

訃報

山内和男氏(享年84、伏見) 11月1日(日)逝去。
 山内和男氏(享年88、左京) 11月4日(日)逝去。

掲示板

「医・食・住・環境」再生シンポジウム
 「ここで生まれ育ち年を重ねたい—安心して住み続けられる京都をめざして—」
 日時 12月1日(日) 午後1時30分～5時
 場所 京都大学百周年時計台記念館大ホール
 内容 基調講演: 森裕之氏(立命館大学政策科学部教授) ◆シンポ: 塚本忠司氏(西京区医師)・山田健司氏(京都女子大学家政学

12月のレセプト受取・締切

基金国保	9日(月)	10日(火)	10日(火)
	○	◎	◎

○は受付窓口設置日、◎は締切日。
 受付時間: 基金 午前9時～午後5時30分
 国保 午前8時30分～午後5時15分
 労災 午前9時～午後5時

宇治久世・増田道彦